

解答はすべて解答用紙に記入し提出して下さい。

第2回 簿記定期試験

問題用紙

3 級

(制限時間 2時間)

簿記の教室 メイプル

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	現金過不足	普通預金	当座預金
売掛金	クレジット売掛金	前払金	未収入金
貸付金	備品	買掛金	前受金
未払金	借入金	備品減価償却累計額	売上
受取手数料	受取利息	雑益	固定資産売却益
仕入	発送費	旅費交通費	支払手数料
減価償却費	支払利息	雑損	固定資産売却損

- 現金の帳簿残高が実際有高より¥32,000 少なかったので現金過不足として処理していたが、決算日において、受取手数料¥35,000 と旅費交通費¥23,000 の記入漏れが判明した。残額は原因が不明であったので、適切な勘定に振り替えるものとする。
- 商品¥300,000 をクレジット払いの条件で販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料は販売代金の4%であり、販売時に認識する。
- 以前注文をうけていた商品¥700,000 を引き渡し、受注したときに手付金として受け取っていた¥100,000 を差し引いた金額を掛けとした。また、先方負担の発送費¥10,000 を現金で支払った。
- 取引銀行から借り入れていた¥5,000,000 の支払期日が到来したため、元利合計を当座預金口座から返済した。なお、借入れにともなう利率は年1.46%であり、借入期間は120日であった。利息は1年を365日として日割計算する。
- ×6年7月31日に備品(取得日;×2年4月1日、取得原価;¥900,000、減価償却方法;定額法、耐用年数6年、残存価額;ゼロ、記帳方法;間接法、決算日;3月31日、1年決算)を¥100,000で売却し、代金は1か月後に受け取ることにした。

第2問 (10点)

楓株式会社(決算年1回、3月31日)における次の取引にもとづいて、受取家賃勘定と前受家賃勘定の空欄①~⑤にあてはまる適切な語句または金額を答案用紙に記入しなさい。

- ×5年4月1日 前期決算日に物件Kに対する今年度4月から7月までの前受家賃を計上していたので、再振替仕訳を行った。1か月分の家賃は¥80,000である。
- ×5年8月1日 物件Kに対する向こう半年分の家賃(8月から1月まで)が当座預金口座に振り込まれた。1か月分の家賃に変更はない。
- ×5年11月1日 物件Hに対する向こう1年分の家賃が当座預金口座に振り込まれた。この取引は新規で、1か月分の家賃は¥120,000である。
- ×6年2月1日 物件Kに対する向こう半年分の家賃(2月から7月まで)が当座預金口座に振り込まれた。今回から1か月分の家賃は¥90,000に値上げしている。
- ×6年3月31日 決算日を迎え、前受家賃を計上した。

(①) 家賃	() () ()	() () (②)	4/1 () ()	4/1 前期繰越 ()
() () ()	8/1 当座預金 ()	() (④) ()	() () ()	() () (⑤)
/	11/1 当座預金 (③)	()	()	()
/	2/1 当座預金 ()	()	()	()
()	()	()	()	()

第3問 (30点)

次の資料 (A) および (B) にもとづいて、答案用紙の×7年4月末の合計試算表を作成しなさい。会計期間は1年、決算日は3月31日である。なお、当社は取引銀行と¥1,000,000を限度とする当座借越契約を結んでいる。

(A) ×7年3月31日の貸借対照表

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現金	616,000	支払手形	450,000
当座預金	1,324,000	買掛金	534,000
受取手形	330,000	所得税預り金	38,000
売掛金	920,000	貸倒引当金	25,000
前払金	70,000	備品減価償却累計額	400,000
商 品	350,000	資 本 金	3,000,000
前払費用	60,000	繰越利益剰余金	423,000
備 品	1,200,000		
	4,870,000		4,870,000

(B) ×7年4月中の取引

- 1日 再振替仕訳を行う。なお、貸借対照表中の前払費用は家賃の前払分である。
- 4日 福岡商事(株)より商品¥270,000を仕入れ、代金のうち¥70,000は発注時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。また、商品の引取運賃(当社負担)¥5,000は現金で支払った。
- 7日 熊本商事(株)より商品¥250,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- 9日 大分商事(株)に振り出していた約束手形¥300,000の支払期日が到来し、当座預金口座から引落としが行われた旨、取引銀行から連絡を受けた。
- 12日 宮崎商事(株)に商品¥850,000を売り渡し、代金のうち半額は同社振出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。なお、当社負担の発送費¥7,000は現金で支払った。
- 13日 宮崎商事(株)に売り渡した商品の一部に汚損品があったため、¥20,000の返品があり、掛け代金から差し引くことにした。
- 15日 さきに宮崎商事(株)より受け取った小切手¥425,000と、前期中に受け取り手許に保管していた送金小切手¥10,000を、ともに当座預金口座に預け入れた。
- 18日 佐賀商事(株)より商品¥350,000を仕入れ、代金のうち¥150,000は約束手形を振り出し、残額は小切手を振り出して支払った。
- 19日 レジスター(備品)を¥400,000で購入し、代金は来月末に支払うことにした。
- 22日 宮崎商事(株)より売掛金¥600,000について、当座預金口座に振り込みがあった。また、長崎商事(株)の売掛金¥250,000については同社振出しの約束手形で回収した。
- 25日 福岡商事(株)に買掛金¥450,000を小切手を振り出して支払った。
- 〃 当月分の従業員の給料¥280,000について、所得税の源泉徴収額¥15,000を控除した残額を、当座預金口座から支払った。
- 30日 水道光熱費¥10,000および通信費¥20,000が当座預金口座から引き落とされた。

第4問 (10点)

下記の [資料] から、株式会社メイプル (決算年1回、3月31日) の損益勘定、資本金勘定、繰越利益剰余金勘定の (ア) ~ (エ) には適切な語句を、(①) ~ (⑥) には適切な金額を記入しなさい。

[資料]

- | | | | |
|---------------------|------------|--------------------|------------|
| 1. 総売上高 | ¥6,750,000 | 2. 純売上高 | ¥6,730,000 |
| 3. 決算整理前仕入勘定残高 (借方) | ¥4,850,000 | 4. 期首商品棚卸高 | ¥520,000 |
| 5. 期末商品棚卸高 | ¥535,000 | 6. 売上原価は仕入勘定で算定する。 | |

損 益		資 本 金	
3/31 仕 入 (①)	3/31 売 上 (③)	3/31 (イ) (④)	4/1 前 期 繰 越 6,000,000
給 料 1,465,000	受 取 手 数 料 270,000		
貸倒引当金繰入 24,000			
減価償却費 162,000			
水道光熱費 214,000			
(ア) (②)			
()	()		
		繰越利益剰余金	
		3/31 (ウ) (⑤)	4/1 前 期 繰 越 700,000
		()	3/31 (エ) (⑥)
			()

第5問 (30点)

次の [資料1] および [資料2] にもとづいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は×1年4月1日から×2年3月31日までの1年間である。

[資料1]

決算整理前残高試算表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
231,000	現 金	
1,150,000	普 通 預 金	
830,000	売 掛 金	
100,000	仮 払 金	
245,000	繰 越 商 品	
4,500,000	建 物	
800,000	備 品	
2,250,000	土 地	
	買 掛 金	985,000
	仮 受 金	80,000
	貸 倒 引 当 金	5,000
	建物減価償却累計額	2,700,000
	車両運搬具減価償却累計額	960,000
	資 本 金	5,000,000
	繰越利益剰余金	495,000
	売 上	5,427,000
	受 取 手 数 料	45,000
2,735,000	仕 入	
1,316,000	給 料	
243,000	水 道 光 熱 費	
75,000	旅 費 交 通 費	
80,000	保 険 料	
42,000	通 信 費	
1,100,000	固 定 資 産 売 却 損	
15,697,000		15,697,000

[資料2] 決算整理事項等

- 現金¥65,000を普通預金口座に預け入れたが、この取引が未処理である。
- 仮払金は、従業員の出張にともなう旅費交通費の概算額を支払ったものである。従業員はすでに出張から戻り、実際の旅費交通費¥94,000を差し引いた残額は普通預金口座に預け入れたが、この取引の記帳がまだ行われていない。
- 仮受金は、全額が売掛金の回収であることが判明した。
- 期首に車両運搬具 (取得原価¥1,200,000、減価償却累計額¥960,000) を¥100,000で売却し、代金は現金で受け取った際に、以下の仕訳を行ったため、適切に修正する。
 (借方) 現 金 100,000
 固定資産売却損 1,100,000
 (貸方) 車 両 運 搬 具 1,200,000
- 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は¥275,000である。
- 建物および備品について、以下の要領でそれぞれ定額法により減価償却を行う。
 建物 : 残存価額ゼロ 耐用年数30年
 備品 : 残存価額ゼロ 耐用年数5年
 なお、備品は全額当期の7月1日に購入したものであり、減価償却費は月割計算する。
- 保険料の前払額が¥20,000ある。
- 受取手数料は全額当期の12月1日に向こう1年分の手数料を受け取ったものであるため、前受額を月割で計上する。